

令和7年度 病害虫発生予察情報

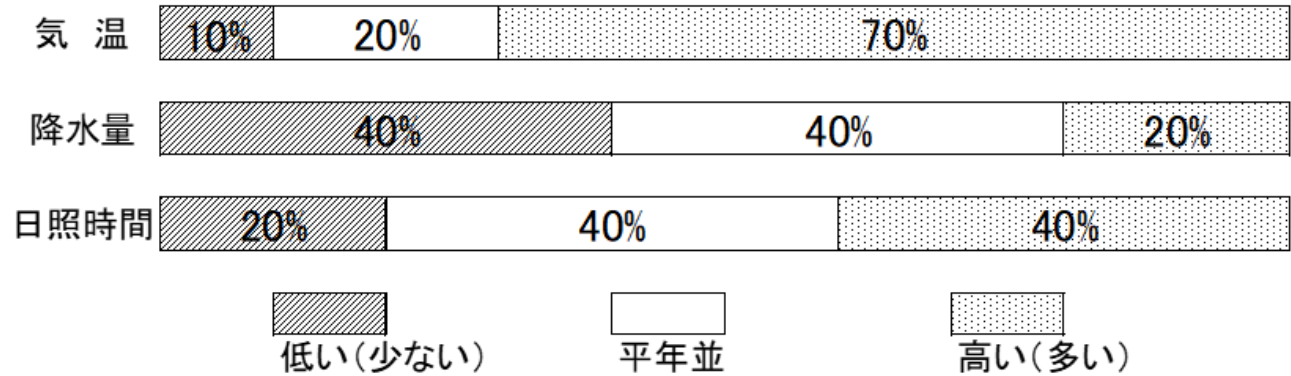
発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和7年7月14日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	葉いもち	平年並
		穂いもち	平年並
		紋枯病	平年並
		白葉枯病	平年並
		縞葉枯病	平年並～やや多い
		ヒメトビウンカ	やや多い
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い
		ツマグロヨコバイ	やや少ない
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	やや多い
		コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	多い
果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
		黒星病	少ない
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	少ない～やや少ない
		アブラムシ類	平年並
	カキ	うどんこ病	やや少ない～平年並
		チャノキアザミウマ	平年並
		カメムシ類	平年並
	果樹全般		平年並

中国地方1か月予報(7月12日～8月11日・広島地方气象台7月10日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



- A. 普通作物
 1) イネ
 (1) 葉いもち
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査（70ほ場）では、発生ほ場率が4.3%（平年2.9%）、発病株率が0.6%（平年0.8%）と発生量は平年並みである。
- ② 6月の感染好適日の出現回数は平年に比べてやや多かったが、7月以降、感染好適日は出現していない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

（2）穂いもち

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

（3）紋枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査では発生を認めていない（平年の発生ほ場率3.7%、発病株率0.4%）。
- ② 7月9日に本田での初発生を認めた。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

（4）白葉枯病

予報内容

発生地方	県内常習発生地帯
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

（5）縞葉枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ② 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年0.9%）と低い。
- ③ 県内の一部で発生が確認されている。

（6）ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率57.8%は（平年56.5%）、捕獲数は15.2頭/50株（平年9.2頭/50株）となり、本種の発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 7月第2半句までにネットトラップ（出雲市）で4頭（平年2.6頭）、予察灯（出雲市）で1頭（平年0.6頭）の誘殺が確認されており、誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、本種によるイネの被害株率は0.1% (平年0.3%) で、平年並みである。
- ② 7月第2半旬までの予察灯における誘殺数は496頭 (平年27.8頭)、フェロモントラップにおける誘殺数は73頭 (平年85.9頭) となっており誘殺数は平年よりやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率13.3%は (平年38.8%)、捕獲数は1.9頭/50株 (平年頭5.6/50株) となり、本種の発生量は平年に比べて少ない。
- ② 7月第2半旬までの予察灯 (出雲市) における誘殺数は11頭 (平年26.3頭) となっており誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第2半旬までに粘着誘殺灯 (出雲市) で1頭 (平年14.3頭) が誘殺された。予察灯 (出雲市) (平年15.3頭) およびネットトラップ (出雲市) (平年3.8頭) において本種の誘殺を認めておらず、誘殺数は平年並みである。
- ② 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は26.7% (平年66.3%)、捕獲数は2.1頭/50株 (平年51.2頭/50株) となり、本種の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月第2半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板 (出雲市)、ネットトラップ (出雲市) では本種の誘殺を認めていない。
- ② 7月中旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は4.4% (平年5.0%)、捕獲数は1.9頭/50株 (平年1.0頭/50株) となり、本種の発生量は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第2半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板 (出雲市)、ネットトラップ (出雲市) では本種の誘殺を認めていない。
- ② 7月中旬に実施した巡回調査の結果、被害株率が0.3% (平年1.8%)、発生ほ場率は4.4% (平年9.0%) となっており、本種の発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬に実施した極早生ほ場でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は59.1%（平年80.5%）、平均捕獲虫数は24.0頭/20回振り（平年8.3頭/20回振り）となり、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて多い。主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、イネカメムシなど）の発生も認められる。
- ② 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は163頭（平年124.5頭）と平年に比べてやや多い。
- ③ イネカメムシの発生ほ場率は31.8%、平均捕獲虫数は0.77頭/20回振りであった。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

注）令和7年度 病虫害発生予察情報 注意報 第1号参照

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率3.7%（平年5.9%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率0.2%（平年1.0%）と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、7月第2半旬までの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(4) ハダニ類

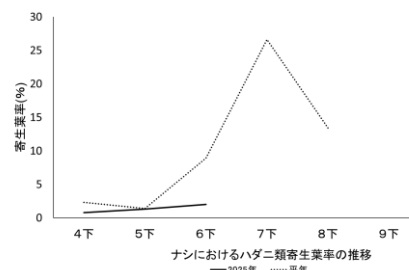
予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率2.0%（平年8.9%）、寄生虫数2.5頭/50葉（平年17.2頭）と少ない（右図参照）。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

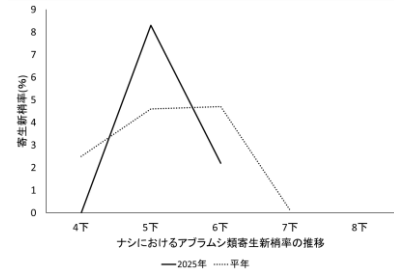
発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 2.3% (平年 4.7%)、寄生度 2.3 (平年 1.9) と平年並みである (右図参照)。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発生を認めていない (平年の発病葉率は 0.1%)。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。

② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月第2半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は201頭 (平年 1142.7頭) と平年並み。

② 6月下旬の巡回調査では被害果率 0.3% (平年 0.3%) と平年並み。

③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp